

岩木山を考える会 2020年度総会

資 料 編

目 次

| | |
|------------|-------|
| 資料1 | 3ページ |
| 資料2 | 4ページ |
| 資料3 | 6ページ |
| 資料4 | 9ページ |
| 資料5 | 11ページ |
| 資料6 | 22ページ |
| 資料7 | 23ページ |
| 資料8 | 26ページ |
| 資料9 | 30ページ |
| 資料10 | 33ページ |
| 資料11 | 34ページ |
| 資料12 | 35ページ |
| 岩木山を考える会会則 | 36ページ |

岩木山を考える会二五周年のあゆみ

| | | |
|-------|-----------|---|
| 1994年 | 4月3日 | 岩木山を考える会発足 設立総会初代会長に正木進三就任 「岩木山の美しい姿をいつまでも残すために、みんなで考えよう」 |
| | 5月10日 | 会報「岩木山を考える」創刊号発行 |
| | 7月4日 | 第一回自然観察会「岩木山をぐるっと眺めてから山麓の自然を観察しよう！」 |
| | 7月9日 | シンポジウム①「岩木山を考える―今、岩木山で何が起きているか」 |
| | 7月29日 | 保安林指定解除への異議意見書提出（155名） |
| | 9月5日 | 署名運動開始 記者会員（市役所記者室） |
| | 12月26日 | 岩木山弥生スキー場開発中止を求める署名簿（1万7千858名） 岩木山スカイラインスキー場開発中止を求める署名簿（1万7千643名） |
| 1995年 | 1月22日 | シンポジウム②「農村の振興と岩木山の環境保全」 基調講演「グリーンストック（緑の資産）運動」 佐藤誠（熊本大学教授） |
| | 1月28日、29日 | 第一回写真展「私の岩木山」 |
| | 2月18日 | 青森県・林野庁・営林署へ「水源涵養保安林解除に反対する要望書」提出 |
| | 5月19日 | 県が岩木山の保安林解除申請を取下げ↓岩木山弥生スキー場開発中止 |
| | 6月3日 | シンポジウム③「スキー場を考える」 基調講演「スキー場開発の問題点」 藤原信（宇都宮大学教授） |
| 1996年 | 2月18日 | シンポジウム④「岩木山と共生する」 基調講演 谷口健（弘前大学） |
| | 3月1日 | 弘前市・弘前リゾート開発弥生スキー場事業転換計画 |
| | 5月19日・21日 | 弥生スキー場跡地レク施設転換策反対のヒラ配り |
| | 9月24日 | 「弥生地区整備懇談会」に正木会長出席 |
| | 11月2日 | シンポジウム⑤「イヌワシと岩木山の環境保全」 基調講演「日本におけるイヌワシの現状と保護」 横山隆一（日本自然保護協会） |
| | 12月2日 | 「景観形成重点地域に関する要望書」提出 |
| 1997年 | 3月16日 | 自然観察会「アニマルトラッキング」（16名） |
| | 7月12日 | シンポジウム⑥「弥生スキー場跡地利用を考える―森林の復元は可能か」 基調講演「森林生態系復元の意義と可能性」 清和研二（東北大学教授） |
| | 7月13日 | 自然観察会「岩木山の環境を探る」 |
| 1998年 | 4月11日 | 1998年度総会 正木会長が顧問に、阿部東新会長就任 |
| | 6月21日 | 自然観察会「初夏の岩木山調散策」 |
| | 10月18日 | 自然観察会「鱸ヶ沢スキー場調査と二子沼観察会」 |
| 1999年 | 2月24日 | 鱸ヶ沢スキー場拡張計画に対する意見申立書提出（青森営林局） |
| | 3月19日、21日 | 第5回写真展「私の岩木山」 |
| | 3月21日 | フォーラム「岩木山を語る―むかしと今―」 |
| | 8月26日 | 鱸ヶ沢スキー場拡張計画中止要望書提出 |
| | 10月9日 | 「神秀次郎スライドのゆうべ」と シンポジウム⑦「鱸ヶ沢スキー場の環境アセスメントを祝る」 |
| 2000年 | 2月16日 | 東北森林管理局青森分局へ「国有林施業実施計画案」に対する異議意見書と 「拡張予定地の森林保全」を求める署名を提出（1万1千名） （日本科学者会議青森県支部・鳴沢川を守る会・日本野鳥の会県支部・ 同弘前支部・日本山岳連盟弘前勤労者山岳会） |

| | | |
|-------|----------------|--|
| | 3月19日 | シンポジウム⑧「鱒ヶ沢スキー場と水問題」 基調講演「スキー場の開発効果と住民の生活環境」 神田健策（弘前大学教授） |
| | 6月26日 10月8日 | 津軽森林管理署コクドに国有林野使用を許可 シンポジウム⑨「鱒ヶ沢スキー場拡張と冬季アジア大会」（約100名） 基調講演「コクドに売られた岩木山」 谷口源太郎（スポーツジャーナリスト） |
| 2001年 | 11月24日 | 鱒ヶ沢スキー場拡張エリア調査 |
| 2002年 | 4月4日 | 故三上正光事務局長の葬儀 |
| | 4月14日 | 2002年度総会 故三上正光氏の後任に三浦章男新事務局長就任 |
| 2003年 | 2月6日 | アジア冬季競技大会モーターグールスキー競技抗議行動（7名） |
| 2004年 | 10月2日 | 創立10周年録田憲講演会（230名） |
| 2005年 | 2月10～13日 | 「岩木山の蝶、ゼフィルス展」（250名） |
| 2006年 | 3月31～4月2日 | 「青森県のトンボ展」 |
| | 9月16～17日 | 東北自然保護の集い（百沢あすなる荘）（90名） |
| 2007年 | 9月30日 | 岩木山コマクサ合同調査（7名） |
| 2008年 | 5月18日 | 第41回自然観察会「岩木山滝ノ沢林道沿い」（20数名） |
| 2009年 | 5月17日 | 第42回自然観察会「二子沼とブナ林」 |
| 2010年 | 2月20日 | フォーラムデイスカッション 「森の多様な生態系と遊歩道のあり方を伐採から考える」（40名） |
| | 11月29日 | 三浦事務局長急逝 |
| 2011年 | 10月23日 | 第4回岩木山講座「赤倉・大石・蔵鬼山神社・鬼神社など神社巡り」（29名） |
| 2012年 | 4月7日 | 2012年度総会 竹浪純新事務局長就任 |
| | 11月3～4日 | 第33回東北自然保護の集い（鶴田町つがる富士見荘）（65名） |
| 2013年 | 9月2～5日 | 「世界の昆虫展」 |
| 2014年 | 5月17日 | 「つがる南風力発電」説明会 |
| 2015年 | 9月13日 | 第3回岩木山講座「岩木山北麓の神社と石神信仰地を巡る」（24名） |
| 2016年 | 8月11日 | 岩木山新設弥生登山道開通 |
| 2017年 | 1月28日 | 正木進三初代会長 ご逝去 |
| | 4月2日 | 2017年度総会（22名）小堀英憲新会長就任 |
| 2018年 | 1月11日 | 竹谷清光副会長 ご逝去 |
| 2019年 | 5月20日 | ミスパシヨウ沼公園駐車場に「ゴミシジミを守ろう！」看板を設置 |

2019年4月5日

弘前市長 櫻田 宏 殿

弥生スキー場跡地問題を考える市民ネットワーク
幹事 小堀英憲(岩木山を考える会)
幹事 葛西聡(弘前市民オンブズパーソン)
幹事 佐藤倅造(市民が主人公のみんなの会)
幹事 今泉昌一(弘前市を考える会)
幹事 土岐峯子(コープあおもり弘前地域)
幹事 田中 研(津軽保健生活協同組合)
事務局長 竹浪 純

要 請 書

<要請内容>

1. 弘前市は、弥生スキー場跡地の保全と活用の計画を策定し、その具体化を図っていただきたい。

<弥生スキー場跡地問題の経過と要請の理由>

1. 我々が弥生スキー場跡地問題にかかわるようになったのは、破たんして工事が中断となった弥生スキー場の 26 ヘクタールの建設予定地を、時の金澤市長が自然体験型拠点施設として大型児童館を建設するという名目で、4 億 8600 万円で買収するという話が出てきた時に始まる。これが 2001 年なので、我々はかれこれ 19 年間この問題に取り組んできたことになる。税金の使い道の問題なので、コープあおもりや津軽保健生協などの生協組織、市民オンブズパーソンや市民が主人公のみんなの会などの市民団体が中心となってネットワークが作られ、運動が進められた。
2. この問題が2006年の市長選挙の争点となった。東奥日報は、金澤市長と岩木山を考える会の阿部会長を紙面を大きく使って写真入りで取り上げ、開発の是非を問う記事を組んだ。結局、選挙で金澤氏が破れ相馬氏に交代した。相馬市長はその公約通り、大型児童館建設の中止を決定した。その時以来、市が約 5 億で買収した 26 ヘクタールという広大な土地をどのようにするのか、跡地の利用が課題となり、今に至っている。
3. 跡地利用の方策の検討については、この間二度にわたり提言が行われてきた。1 回目は 2009 年弘前市と弘大が共同で作成した「弥生いこいの広場隣接地利活用方策検討事業報告書」である。これは相馬市長の時代に作成された。この中には、その基本的な考え方として、5 点を掲げた。
 1. 広く市民の意見を聴いて、今後の方向を定めていく。
 2. 自然に近い姿を念頭に置きながら検討を進める。
 3. 大型箱物施設を中心とした計画とはしない。
 4. 防災や利用上の安全面も考慮し整備の方向性を定めていく。
 5. 懇談会などの運営にあたっては、大学等、外部のノウハウ・手法を活用することを検討する。我々は、文字通り、この基本的な考え方に沿ってこれまで活動を進めてきている。
4. その後、葛西市長が 2010 年に当選した。我々は市長に懇談を申入れ、7 月 30 日に懇談の機会があつ

たが、その際に葛西市長も、この基本的な考え方に沿った形で「地域住民と十分話し合いをしながら進めていく。箱物建設はせず市民の森として育てていく方向で前に進めていきたい」との見解を表明した。

5. この方針のもとで、2011年に「弥生いこいの広場隣接地利活用市民懇談会」が発足した。メンバーは11名で、この中に我々の組織から2名を入れていただき、ほぼ1年間の議論を経て、翌年の12月に「弥生いこいの広場隣接地利活用市民懇談会検討方策報告書」を提出した。
6. この報告書には、利活用の基本方針とゾーンごとの整備イメージ、今後の検討課題、が提示されている。弘前市はこの報告書を受け、外部検討委員会を2013年に立ち上げ、利活用の具体化を図る、とした。ところがその後、弥生スキー場跡地問題の所管がそれまでの企画課から今の公園緑地課に変わった。立ち上げるはずだった検討委員会が一向に立ち上がらないままに、利活用計画策定が繰り返され、あれよあれよという間に6年が経過し今日に至っている。
7. 去年から櫻田氏が弘前市のトップとなった。我々は改めて、弥生スキー場跡地問題を櫻田市長の手で一步前に進めてほしい、ということをお願いしたい。その上で強調したいことは、弥生スキー場跡地は単なる山林とはわけが違い、市が5億という巨額の税金を投入して購入した土地だということである。そのことをしっかりと自覚していただきたい。行政は、この地に投入された税金が無駄金ではなかったということを市民に示す責任がある。利活用計画の策定に向けて動き出すということは、その責任を果たすことだと理解していただきたい。
8. 市と弘前大学による共同報告書が2009年に出されて以来、我々は弥生の跡地の自然回復調査を行ってきた。ここは、1994年にスキー場のターミナルを作るために、山の斜面を10m以上も深く削って造成した場所である。一帯は完全に裸の土地になり、動植物の息が0のところから再出発することとなった場所だ。それが25年を経過し、森が戻って来つつある。その移り変わりを記すことが、必ず、この跡地の利活用に役立つことになるに違いない、と予想して始めた調査である。調査内容は、植物調査、生物調査、野鳥調査、そして樹木の成長の度合いを測定する毎木調査だ。2010年から始めたので、今年で10年になる。調査の中で貴重な動植物がいることが分かってきたし、自然の移り変わりの姿も見えてきている。
9. 調査活動と共に、観察会を2009年から毎年実施している。6年前の2013年からは弘前市が観察会を主催するようになった。我々もこれに協力しており、一昨年からは観察会を年2回に増やしてきている。現在の市による弥生スキー場跡地に対する事業計画は、この年2回の観察会のみだと思う。問題は、この観察会が跡地の今後の利活用に向けてどのような位置づけにあるのか、ということである。羅針盤なしに、個別の事業を繰り返しても、我々にはなかなか展望は見えてこない。
10. そんなこともあり、こうした里山の利活用の全国の成功事例を学んでみよう、ということで、昨年6月に弘前市と共催で「弥生の森づくりセミナー」を開催した。講師は日本自然保護協会から招いた。そこで改めて分かったことは、どこの地域でも本気になって取り組む人が中心におり、そこから輪が広がっているということである。それでは我々のところは誰が中心になるのか、ということだが、ボランティアのレベルでは到底できるものではない。弘前市自らがこの課題に本気になって取り組む、という姿勢が求められている。
11. 弥生跡地の価値について、自然保護協会の講師は非常に高い価値を認めていたが、問題は、当事者の我々、そして弘前市自身がその価値を十分に認識していない事ではないか、と考える。観察会で捕獲して子供が歓声を上げるニホンザリガニは、青森県の重要希少野生生物に指定されている。一時湿地帯で発生したハッチョウトンボも同様だ。植物にも同様の希少なものが観られる。弥生スキー場跡

地はこのように豊かな自然を肌で感じる事が出来る場所なのだ。この場所を、弘前市が抱えている課題解決のためにどう活用するか、そうした視点で内部の議論を深めることが大事ではないだろうか。

12. こうした議論を深めながら、他方では、跡地に多くの市民に足を運んでもらう。そのための手立てを考える必要がある。観察会の回数を増やすとか、少しずつ開放して自由に歩ける場所を増やしていくとか、ガイドを養成するとか、やるべきことはたくさんある。また、こうした取り組みをするうえで拠点になるのは弥生いこいの広場のハイランドハウスだ。いこいの広場の管理エリアを徐々に広げていただくなどして、一体的な運営も今後検討すべき課題である。いずれにせよ、こうした設計図自体を、2012年の報告書にもある通り、市民の参加の中で作り上げていくことが必要だ。弘前市はその努力を始めていただきたい。

以上



観察会にご参加ください

観察会では、街にはないさまざまな自然を近くで見ることができます



ニホンザリガニ



アカゲラ



センブリ



セミのぬけがら



ヒトツバイチヤクソウ



シジュウカラ

考えよう **ここで、みんなですること**

弘前市主催で、年2回（夏・秋）「親子で観察会」を実施しています。今年
の観察会は、6月1日と9月1日の弘前市広報とホームページに掲載されま
すので、指定された連絡先にお申込みください。→右のQRコードで確認できま
す。長靴と雨具、歩きやすい服装で誰でも参加できます。岩木山ろくに広がる豊
かな自然をどう活かし利用していくかを一緒に考えていきましょう。（2020.4）



弥生の森

来て、見て、触れる
すぐ近くにある自然です

(弥生スキー場跡地)

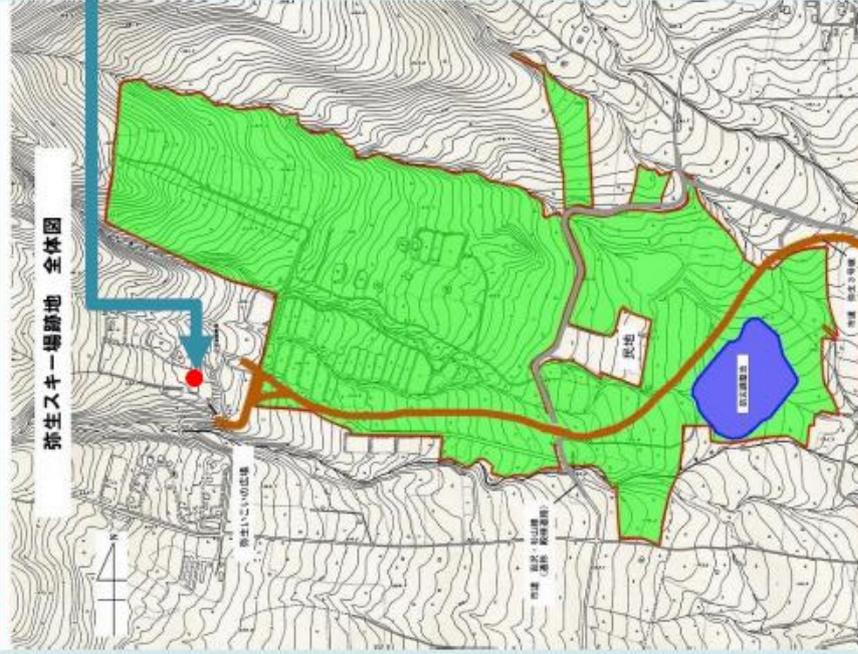
資料4



弥生の森

を ご 存 じ ですか？

(弥生スキー場跡地)



弥生いこいの広場
ハイランドハウス

弥生ハイランドハウス
前の駐車場から左手前
方に、弘前市が所有す
る26ヘクタール（弘前
公園の約半分の広さ）
の森があります。

弘前市は、この森の利
活用のしかたについて、
市民の皆さんとともに考
えたいと思っています。

(左図、緑のエリア)

発行：弥生ネット（弥生スキー場跡地問題を考える市民ネットワーク）

【連絡先】弘前市野田2-2-1 コープあおもり弘前地域（TEL070-6952-2614 竹浪）

市民がつくる「弥生の森」

「弥生の森」のなりたち

岩木山麓のナラを中心とする広葉樹林でしたが、今から30年前、この場所にスキー場を建設しようとした「弘前リゾート開発㈱」が、このあたりの樹木を伐採してしまいました。しかしその後、パブルの崩壊でスキー場建設が中止となりました。ところが当時の弘前市はこの地に大型児童館の建設を計画し、市民の税金5億8900万円を投じ一帯の森を買い取ったのです。しかしこの計画も、市民の大きな反対で中止となりました。これが「弥生の森」と呼ばれる場所です。



弥生の自然を守って、とアピール（2001年）

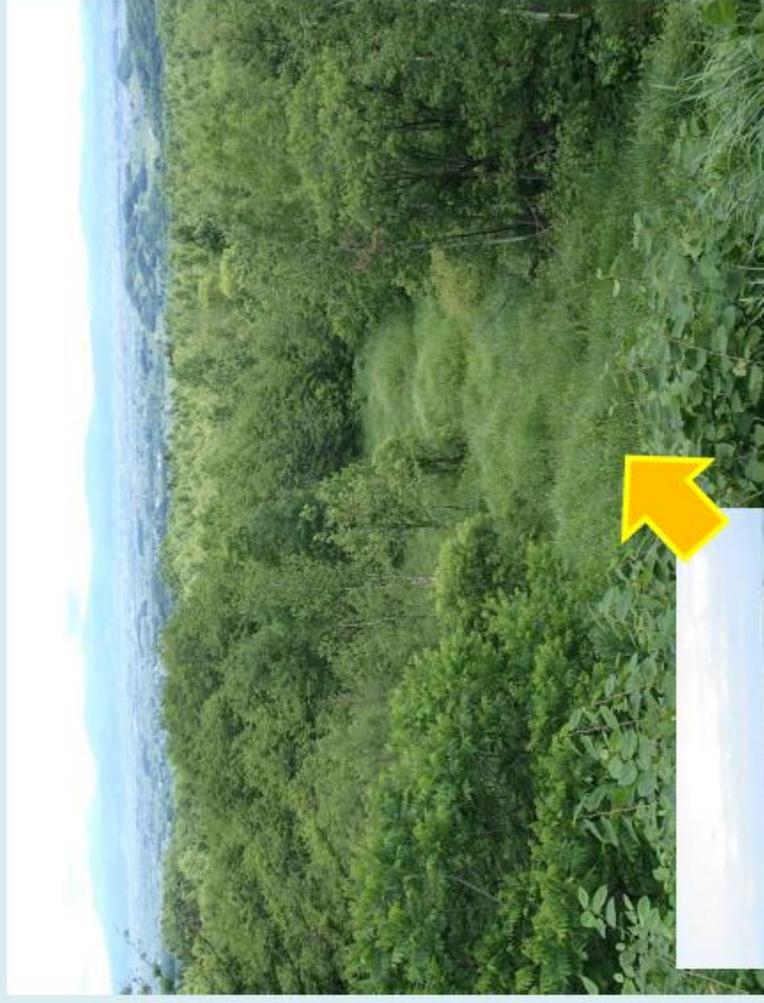


3万筆の署名を提出（2001年）

「弥生の森」の見まもり

弥生ネットでは、スキー場開発が中止となった直後から、定点観測や観察会を続け、「弥生の森」の回復を見まもってきました。その結果「弥生の森」の自然は、日本で一番小さく絶滅危惧種のハツチョウトンボが飛び交ったこともありました。現在、これも絶滅危惧種のニホンザリガニが生息するなど徐々に回復してきています。

弘前市は現在、「弥生の森」の利活用について、①広く市民の声を聞く ②自然に近い姿を大切にする ③大型箱ものを建設しない ④防災や安全面を考慮して整備する ⑤運営には大学などからノウハウを学ぶ を基本方針として、毎年、市主催の観察会を行い、市民の皆さんにこの場所を知ってもらおう取り組みを進めています。



「弥生の森」現在の全景

20年で木はこんなに大きく育ちます



ある日の観察会の様子



弥生の森に住むモリアオガエル

ケコ

「弥生の森」のこれから

市街地に近く、けわしい山道を歩く必要もなく、自然を身近に体験できる「弥生の森」は、とても貴重な環境です。

市民が学び、憩う森として親しまれる場所となるために、どんな整備が必要か、どんな工夫が必要か、市民が知恵を出し合ひましょう。是非一度、観察会に遊びに来てください。

| 門 | 綱・類 | 科 | | 種名 | 2014 6/18 | 2015 6/21 | 2016 6/14 | 2017 6/2 | 2018 6/26 | 2019 6/20 |
|------|--------|---------|---|-------------|--------------|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|
| 被子植物 | 双子葉類 | スマレ科 | あ | アオイスミレ | ○ | | | | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | モクセイ科 | | アオダモ | | ○ | | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | バラ科 | | アオナウシロイチゴ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | モチノキ科 | | アオハダ | | ○ | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | | アオモリアザミ | | | | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ヒユ科 | | アカザ | ○ | ○ | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | イラクサ科 | | アカソ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | アカバナ科 | | アカバナ | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| 裸子植物 | マツ綱 | マツ科 | | アカマツ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キンポウゲ科 | | アキカラマツ | | | ○ | | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | グミ科 | | アキグミ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | | アキタブキ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | タデ科 | | アキノウナギツカミ | | ○ | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ツツジ科 | | アキシバ | | | ○ | | | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | リンドウ科 | | アケボノソウ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | ネギ科 | | アサツキ | ○ | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | バラ科 | | アズキナシ | | | | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | カヤツリグサ科 | | アズマナルコ | ○ | | | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ウリ科 | | アマチャズル | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | セリ科 | | アマニュー | | | | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | スマレ科 | | アメリカスミレサイシン | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | | アメリカセンダングサ | | | | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | スイカズラ科 | | アラゲヒョウタンボク | | | ○ | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | アリトウグサ科 | | アリトウグサ | | | | | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | イグサ科 | い | イ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | タデ科 | | イシミカワ | | | ○ | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | | イタチハギ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | タデ科 | | イタドリ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ツツジ科 | | イチヤクソウ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | カヤツリグサ科 | | イトアオスゲ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | ヒルムシロ科 | | イトモ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | | イヌエンジュ | ○ | | | | | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | アブラナ科 | | イヌガラシ | | | | ○ | | |
| シダ植物 | ウラボシ目 | コウヤワラビ科 | | イヌガンソク | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | シソ科 | | イヌゴマ | ○ | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ヤナギ科 | | イヌコリヤナギ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | | イヌドウナ | ○ | | | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | シソ科 | | イヌトウバナ | | | | | | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | ツユクサ科 | | イボクサ | ○ | | | | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | アジサイ科 | | イワガラミ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ナデシコ科 | う | ウシハコベ | | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | | ウスバヤブマメ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | カバノキ科 | | ウダイカンバ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | ヤマノイモ科 | | ウチワドコロ | | | ○ | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ウコギ科 | | ウド | ○ | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キンポウゲ科 | | ウマノアシガタ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | セリ科 | | ウマノミツバ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ツツジ科 | | ウメガサソウ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ウルシ科 | | ウルシ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | イラクサ科 | | ウワバミソウ | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | バラ科 | | ウワミズザクラ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ヤナギ科 | | ウンリュウヤナギ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | エゴノキ科 | え | エゴノキ | | ○ | ○ | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ユキノシタ科 | | エゾアジサイ | | | | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ムクロジ科 | | エゾイタヤ | | ○ | | | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | シソ科 | | エゾシロネ | | | | | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | ラン科 | | エソズラン | | ○ | | | | |
| コケ植物 | 蘚類 | ギボウシゴケ科 | | エソスナゴケ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | | エソタンポポ | | ○ | | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ニシキギ科 | | エソツリバナ | ○ | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | タデ科 | | エソノギシギシ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| シダ植物 | ハナヤスリ目 | ハナヤスリ科 | | エソフユノハナワラビ | ○ | | | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ミソハギ科 | | エソミソハギ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | | エニシダ | | | | ○ | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | シュロソウ科 | | エンレイソウ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | アカバナ科 | お | オオアカバナ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | | オオアキノキリンソウ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | イネ科 | | オオアブラススキ | | ○ | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | タデ科 | | オオイタドリ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | ユリ科 | | オオウバユリ | ○ | | ○ | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | レンブクソウ科 | | オオカメノキ | | | | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | | オオキンケイギク | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | スマレ科 | | オオタチツボスミレ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | セリ科 | | オオチドメ | | | | | ○ | |

| 門 | 綱・類 | 科 | 種名 | 2014 6/18 | 2015 6/21 | 2016 6/14 | 2017 6/2 | 2018 6/26 | 2019 6/20 |
|------|-------|----------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|
| 被子植物 | 単子葉類 | カヤツリグサ科 | オオヌマハリイ | | | | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | クスノキ科 | オオバクロモジ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | オオバコ科 | オオバコ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キンポウゲ科 | オオヤマオダマキ | | | | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | バラ科 | オオヤマザクラ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ナデシコ科 | オオヤマフスマ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | オオヨモギ | ○ | ○ | | | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | サクラソウ科 | オカトラノオ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | アカネ科 | オククルマムグラ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | カヤツリグサ科 | オクノカンスゲ | | ○ | | | | |
| シダ植物 | ウラボシ目 | オシダ科 | オシダ | ○ | | | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | オトギリソウ科 | オトギリソウ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | スイカズラ科 | オトコエシ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | オトコヨモギ | | | | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | イネ科 | オニウシノケグサ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | クルミ科 | オニグルミ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | バラ科 | オニシモツケ | ○ | ○ | ○ | | | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | オニタビラコ | | | | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | ヤマノイモ科 | オニドコロ | ○ | | ○ | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | オニノゲシ | | ○ | | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ヤナギ科 | オノエヤナギ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | オヤマボクチ | | | ○ | | | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | バラ科 | オランダイチゴ | | | | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | アブラナ科 | オランダガラシ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ナデシコ科 | オランダミミナグサ | | | | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キョウチクトウ科 | ガガイモ | ○ | ○ | | | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | シソ科 | カキドウシ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ツツジ科 | ガクウラジロヨウラク | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ブナ科 | カシワ | | | | | | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | ユリ科 | カタクリ(の実) | | | | ○ | | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ビャクダン科 | カナビキソウ | | ○ | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | アサ科 | カナムグラ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | ガマ科 | ガマ | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | イネ科 | カモガヤ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| シダ植物 | ウラボシ目 | イワデンダ科 | カラクサイヌワラビ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | アサ科 | カラハナソウ(ホップ) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 裸子植物 | マツ綱 | マツ科 | カラマツ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ヤナギ科 | カワヤナギ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ナデシコ科 | カワラナデシコ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | レンブクソウ科 | カンボク | ○ | | | | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キンポウゲ科 | キクザキイチリンソウ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | バラ科 | キジムシロ | ○ | | ○ | ○ | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | アヤメ科 | キショウブ | ○ | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | モクレン科 | キタコブシ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ヤナギ科 | キツネヤナギ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ツリフネソウ科 | キツリフネ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | メギ科 | キバナイカリソウ | | | ○ | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キブシ科 | キブシ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | バラ科 | キンミズヒキ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | ラン科 | ギンラン | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| シダ植物 | ウラボシ目 | コウヤワラビ科 | クサソテツ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キンポウゲ科 | クサボタン | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | サクラソウ科 | クサレダマ | ○ | ○ | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | クズ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | イネ科 | クマイザサ(シナノザサ) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | バラ科 | クマイチゴ | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | クロウメドキ科 | クマヤナギ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | ラン科 | クモキリソウ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | クララ | | ○ | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ブナ科 | クリ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | アカネ科 | クルマバソウ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | シュロソウ科 | クルマバツクバネソウ | | | | | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | ユリ科 | クルマユリ | ○ | ○ | | ○ | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | カヤツリグサ科 | グレーンスゲ | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | カヤツリグサ科 | クログワイ | | | | | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | イグサ科 | クロボシソウ | | | ○ | | | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キンポウゲ科 | ケキツネノボタン | | | | | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | イネ科 | ケチヂミザサ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | レンブクソウ科 | ケナシヤブデマリ | ○ | | | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ウコギ科 | ケヤマウコギ | | | | | | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | カバノキ科 | ケヤマハンノキ | | | | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | フウロウソウ科 | ゲンノショウコ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | イグサ科 | コウガイゼキショウ | | | | | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | サトイモ科 | コウキクサ | | | ○ | | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | カヤツリグサ科 | ゴウソ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | コウゾリナ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

| 門 | 綱・類 | 科 | 種名 | 2014 6/18 | 2015 6/21 | 2016 6/14 | 2017 6/2 | 2018 6/26 | 2019 6/20 |
|------|-------|----------|---------------|--------------|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|
| 被子植物 | 単子葉類 | サトイモ科 | コウライテンナンショウ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | コウリンタンポポ | | | | | | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | ラン科 | コケイラン | | | ○ | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | オトギリソウ科 | コケオトギリ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ウコギ科 | コシアブラ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | サクラソウ科 | コナスビ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ブナ科 | コナラ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ゴマナ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ニシキギ科 | コマユミ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | ラン科 | サイハイラン | | ○ | | | | |
| シダ植物 | ウラボシ目 | オシダ科 | サカゲイノデ | | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | ラン科 | ササバギンラン | ○ | | | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | カヤツリグサ科 | サドスゲ | ○ | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キンボウゲ科 | サラシナショウマ | | | | | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | サルトリイバラ科 | サルトリイバラ | | | | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | マタタビ科 | サルナシ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | サワアザミ | | | | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キキョウ科 | サワギキョウ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | クルミ科 | サワグルミ | | | | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | サワヒヨドリ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | メギ科 | サンカヨウ | ○ | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ミカン科 | サンショウ | ○ | | | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | バラ科 | シクリザクラ | | ○ | | | | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | シオデ科 | シオデ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | キク科 | シオン | | ○ | | | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | カヤツリグサ科 | シカクイ | ○ | | | | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | ラン科 | ジガバチソウ | | | | ○ | | |
| シダ植物 | ウラボシ目 | シシガシラ科 | シシガシラ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | アヤメ科 | ジャーマンアイリス | | | | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | シソ科 | ジャコウソウ | | | | | ○ | |
| シダ植物 | ウラボシ目 | オシダ科 | ジュウモンジシダ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | カバノキ科 | シラカバ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キンボウゲ科 | シラネアオイ | | | ○ | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ヒユ科 | シロザ | | ○ | | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | シロツメクサ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | シロバナニガナ | | | ○ | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ヤナギ科 | シロヤナギ | ○ | | ○ | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ツツジ科 | ジンヨウイチヤクソウ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | ヒガンバナ科 | スイセン | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | アブラナ科 | スカシタゴボウ | | ○ | | | ○ | |
| 裸子植物 | マツ綱 | ヒノキ科 | スギ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| シダ植物 | トクサ目 | トクサ科 | スキナ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | イネ科 | ススキ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | イネ科 | スズメノカタビラ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | イグサ科 | スズメノヤリ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | キジカクシ科 | スズラン | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ムラサキ科 | スナビキソウ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | スマレ科 | スマレ(ナミスミレ) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | スマレ科 | スマレサイシン | | | | | | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | セイヨウタンポポ | ○ | | ○ | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | セイヨウノコギリソウ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | セイヨウミヤコグサ | ○ | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | センボンヤリ | | | ○ | | | ○ |
| シダ植物 | ウラボシ綱 | ゼンマイ科 | ゼンマイ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | オオオバコ科 | タチイヌノフグリ | | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | キジカクシ科 | タチキボウシ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | シオデ科 | タチシオデ | | | ○ | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | スマレ科 | タチツボスミレ | ○ | | | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | スイカズラ科 | タニウツギ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | アブラナ科 | タネツケバナ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ウコギ科 | タラノキ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | イネ科 | チガヤ | ○ | | | | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | イヌサフラン科 | チゴユリ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | イネ科 | チシマザサ | ○ | | ○ | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ウコギ科 | チドメグサ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ツガルアザミ | | | | | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | シュロソウ科 | ツクバネソウ | ○ | | | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ウルシ科 | ツタウルシ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | カバノキ科 | ツノハシバミ | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | スマレ科 | ツボスミレ(ニョイスミレ) | ○ | | ○ | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ナデシコ科 | ツメクサ | | | | | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | ツユクサ科 | ツユクサ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ツリフネソウ科 | ツリフネソウ | | ○ | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | アジサイ科 | ツルアジサイ | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ニシキギ科 | ツルウメドキ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ミカン科 | ツルシキミ | | ○ | | | | |

| 門 | 綱・類 | 科 | 種名 | 2014 6/18 | 2015 6/21 | 2016 6/14 | 2017 6/2 | 2018 6/26 | 2019 6/20 |
|------|----------|----------|---------------|--------------|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | ツルフジバカマ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | リンドウ科 | ツルリンドウ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| シダ植物 | ヒカゲノカズラ目 | ヒカゲノカズラ科 | と トウゲシバ | | | ○ | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ウマノスズクサ科 | トウゴクサイシン | | | | | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ドクウツギ科 | ドクウツギ | ○ | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ドクダミ科 | ドクダミ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| コケ植物 | 蘚類 | シノブゴケ科 | トヤマシノブゴケ | | | ○ | | | |
| シダ植物 | ウラボシ目 | チャセンシダ科 | トラノオシダ | | ○ | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ユキノシタ科 | トリアシショウマ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | イネ科 | な ナガハグサ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | バラ科 | ナガボノシロワレモコウ | ○ | ○ | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | シソ科 | ナギナタコウジュ | ○ | ○ | | | | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ブドウ科 | ナツツタ | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | バラ科 | ナナカマド | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | キギカクシ科 | ナルコユリ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | バラ科 | ナワシロイチゴ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ナンブアザミ | | ○ | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | シソ科 | に ニガクサ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ニガナ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | レンブクソウ科 | ニワトコ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | イネ科 | ぬ ヌカホ | | | | | | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | ヌスビトハギ | ○ | | ○ | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ウルシ科 | ヌルデ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | ラン科 | ね ネジバナ | | | | | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | イネ科 | ネズミガヤ | | | ○ | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ヒルガオ科 | ネナシカズラ | ○ | | | | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | ラン科 | ネバリノギラン | | | | | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | ネムノキ | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | の ノアザミ | ○ | ○ | | | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | バラ科 | ノイバラ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ノゲシ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ノコンギク | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | アヤメ科 | ノハナショウブ | | | | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ノブキ | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ブドウ科 | ノブドウ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ナデシコ科 | ノミノフスマ | | | | | | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | アジサイ科 | ノリウツギ | | | ○ | | ○ | |
| 被子植物 | マツ綱 | イチイ科 | は ハイヌガヤ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | モチノキ科 | ハイヌツゲ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ムクロジ科 | ハウチワカエデ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | シソ科 | ハナトラノオ | | | | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ハナニガナ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ツツジ科 | ハナヒリノキ | | | | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | ハリエンジュ | | ○ | | | | |
| コケ植物 | 蘚類 | カサゴケ科 | ハリガネゴケ | ○ | ○ | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ウコギ科 | ハリギリ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | イネ科 | ハルガヤ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | アブラナ科 | ハルザキヤマガラシ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ハルジオン | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ハンゴンソウ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| シダ植物 | ヒカゲノカズラ目 | ヒカゲノカズラ科 | ひ ヒカゲノカズラ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | ツツジ科 | ヒトツバイチヤクソウ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | センリョウ科 | ヒトリシツカ | | | ○ | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ガリア科 | ヒメアオキ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | シソ科 | ヒメオドリコソウ | ○ | | ○ | | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | サトイモ科 | ヒメザゼンソウ | | | | | | |
| シダ植物 | ウラボシ綱 | ヒメシダ科 | ヒメシダ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ヒメジオン | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | カヤツリグサ科 | ヒメシラスゲ | ○ | | ○ | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | タデ科 | ヒメスイバ | ○ | ○ | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ヒメハギ科 | ヒメハギ | | | | | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | アヤメ科 | ヒメヒオウオギズイセン | | | | | | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ヒメムカシヨモギ | | | | | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ヒヨドリバナ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 単子葉類 | イグサ科 | ヒライ(イヌイ) | ○ | | | | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | ヒルムシロ科 | ヒルムシロ | ○ | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ムラサキ科 | ヒレハリソウ(コンフリー) | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | イネ科 | ヒロハウシノケグサ | | | | | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | カヤツリグサ科 | ヒロバスゲ | ○ | | | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | サトイモ科 | ヒロハテンナンショウ | | | ○ | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | ふ フジ | | | | | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | フタクサ | ○ | ○ | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | フタナ | | | | | | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | センリョウ科 | フタリシズカ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 被子植物 | 双子葉類 | リンドウ科 | フデリンドウ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ブナ科 | ブナ | | | | | | ○ |

| 門 | 綱・類 | 科 | 種名 | 2014 6/18 | 2015 6/21 | 2016 6/14 | 2017 6/2 | 2018 6/26 | 2019 6/20 | |
|------|-------|-----------|-----------------|--------------|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|-----|
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | フランスギク | | ○ | | | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ムクロジ科 | ヘニイタヤ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ツツジ科 | ベニバナイチヤクソウ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | オオバコ科 | ヘラオオバコ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | イヌサフラン科 | ホウチャクソウ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | モクレン科 | ホオノキ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| シダ植物 | ウラボシ目 | イワデンダ科 | ホソバシケシダ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| シダ植物 | ウラボシ目 | オシダ科 | ホソバナライシダ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | |
| コケ植物 | 苔類 | ミズゼニゴケ科 | ホソバミズゼニゴケ | | ○ | | | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キンポウゲ科 | ポタンソウ | | | | | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ツツジ科 | ホツツジ | | | | ○ | | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | キジカクシ科 | マイヅルソウ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | タデ科 | ママコノシリヌグイ | ○ | | | ○ | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | モクセイ科 | マルバアオダモ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | マンサク科 | マルバマンサク | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ミズキ科 | ミズキ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | アカバナ科 | ミズタマソウ | | | | | | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | ラン科 | ミズトンボ | | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ブナ科 | ミズナラ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| シダ植物 | ウラボシ目 | ヒメシダ科 | ミソシダ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | タデ科 | ミソソバ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | カヤツリグサ科 | ミチノクホンモンジスゲ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | セリ科 | ミツバ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | アケビ科 | ミツバアケビ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | バラ科 | ミツバツチグリ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | カヤツリグサ科 | ミノボロスゲ | ○ | ○ | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ナデシコ科 | ミミナグサ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | ミヤコグサ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | モクセイ科 | ミヤマイボタ | ○ | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | レンブクソウ科 | ミヤマガマズミ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | カヤツリグサ科 | ミヤマカンスゲ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | キジカクシ科 | ミヤマナルコユリ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ウリ科 | ミヤマニガウリ | | ○ | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ケシ科 | ムラサキケマン | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | ツユクサ科 | ムラサキツユクサ | | | | | | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | メドハギ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | アカバナ科 | メマツヨイクサ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | アカネ科 | ヤエムグラ | | | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ユキノシタ科 | ヤグルマソウ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | モクセイ科 | ヤチダモ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ヤブタバコ | | | | | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | セリ科 | ヤブニンジン | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | ヤブハギ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | バラ科 | ヤブヘビイチゴ | | | | | ○ | | |
| シダ植物 | ウラボシ目 | イワデンダ科 | ヤマイヌワラビ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ウルシ科 | ヤマウルシ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | クワ科 | ヤマグワ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ツツジ科 | ヤマツツジ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| シダ植物 | ゼンマイ目 | ゼンマイ科 | ヤマドリゼンマイ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ヤナギ科 | ヤマナラシ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ヤマニガナ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ヤナギ科 | ヤマネコヤナギ(バッコヤナギ) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | ヤマノイモ科 | ヤマノイモ | | ○ | | | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ヤマノゲシ | | | | ○ | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | ヤマハギ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | カバノキ科 | ヤマハンノキ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | バラ科 | ヤマブキシヨウマ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ブドウ科 | ヤマブドウ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | ムクロジ科 | ヤマモミジ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 単子葉類 | キジカクシ科 | ユキザサ | | | | ○ | ○ | | |
| 被子植物 | 単子葉類 | イネ科 | ヨシ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ヨツバヒヨドリ | ○ | ○ | | | | | |
| 被子植物 | 双子葉類 | キク科 | ヨモギ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | リョウブ科 | リョウブ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| シダ植物 | ウラボシ目 | オシダ科 | リョウメンシダ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 被子植物 | 双子葉類 | マメ科 | ルピナス | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| シダ植物 | ウラボシ目 | コバノイシカグマ科 | ワラビ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 種 数 | | | | 369 | 216 | 198 | 204 | 202 | 234 | 206 |

弥生ススキ一場跡地植生回復調査 毎木調査

調査日:
 1回目 2010/11/28/18:30~15:20 6回目 2013/6/8/10:00~12:00 16回目 2018/7/1/9:00~11:00
 2回目 2011/6/12/10:00~12:00 7回目 2013/11/24/9:00~11:00 17回目 2018/11/28/9:30~10:00
 3回目 2011/11/20/10:00~11:00 8回目 2014/6/22/10:00~12:00 18回目 2019/6/28/9:10~10:30
 4回目 2012/6/17/10:00~12:00 9回目 2014/11/23/9:00~11:00 19回目 2019/11/22/9:10~12:00
 5回目 2012/11/18/10:00~11:00 10回目 2015/6/21/13:00~14:00

| No. | 対象木 | エリア | 胸高周囲径 mm | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-----------|----------|--------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| | | | 101128 | 110612 | 111120 | 120617 | 121118 | 130608 | 151122 | 161122 | 170702 | 171121 | 180701 | 181128 | 190623 | 191122 | |
| 1 | コバノソキ | 1 2015根虫 | 815 | 825 | 855 | 875 | 900 | 910 | 979 | 984 | 993 | 998 | 1010 | 1015 | 1023 | 1027 | 1040 |
| 2 | コバノソキ | 1 節の上 | 725 | 740 | 780 | 766 | 810 | 810 | 867 | 870 | 877 | 882 | 890 | 895 | 906 | 908 | 908 |
| 3 | シラカバ | 1 | 467 | 470 | 485 | 495 | 505 | 510 | 575 | 583 | 590 | 600 | 615 | 623 | 636 | 647 | 660 |
| 4 | シラカバ | 1 新対象木 | 615 | 610 | 622 | 635 | 630 | 630 | 647 | 596 | 608 | 625 | 643 | 651 | 662 | 678 | 688 |
| 5 | シラカバ | 1 | 390 | 390 | 400 | 425 | 415 | 425 | 471 | 477 | 488 | 500 | 510 | 523 | 533 | 544 | 555 |
| 6 | カワヤナギ | 1 節の上 | 605 | 625 | 635 | 650 | 667 | 675 | 787 | 804 | 830 | 849 | 880 | 890 | 915 | 926 | 942 |
| 7 | カラマツ | 1 | 430 | 455 | 482 | 475 | 477 | 490 | 510 | 513 | 517 | 521 | 524 | 533 | 534 | 538 | 540 |
| 8 | カラマツ | 1 | 553 | 560 | 596 | 592 | 610 | 610 | 667 | 673 | 679 | 697 | 713 | 723 | 727 | 738 | 744 |
| 9 | ヤマナラシ | 1 | 255 | 250 | 250 | 252 | 250 | 250 | 267 | 261 | 262 | 266 | 268 | 268 | 269 | 270 | 270 |
| 10 | コバノソキ | 1 | 610 | 625 | 650 | 666 | 685 | 690 | 767 | 773 | 788 | 801 | 818 | 827 | 837 | 847 | 856 |
| 11 | コバノソキ | 2 | 545 | 600 | 600 | 640 | 665 | 655 | 780 | 797 | 817 | 837 | 855 | 875 | 899 | 926 | 930 |
| 12 | ニセアカシヤ | 2 | 620 | 620 | 655 | 685 | 657 | 675 | 730 | 740 | 750 | 759 | 767 | 778 | 794 | 805 | 807 |
| 13 | ヤマナラシ | 2 | 675 | 680 | 690 | 720 | 745 | 750 | 882 | 898 | 924 | 944 | 962 | 981 | 1002 | 1020 | 1030 |
| 14 | カワヤナギ | 2 枝上測 | 610 | 605 | 615 | 622 | 630 | 615 | 621 | 627 | 639 | 651 | 663 | 673 | 683 | 693 | 696 |
| 15 | カワヤナギ | 2 | 940 | 920 | 943 | 965 | 990 | 1000 | 1102 | 1116 | 1153 | 1182 | 1212 | 1231 | 1250 | 1267 | 1288 |
| 16 | ヤマコリヤナギ | 2 2015枯れ | 145 | 135 | 130 | 135 | 125 | 125 | | | | | | | | | |
| 16 | ヤマナラシ | 2 新対象木 | | 450 | 454 | 450 | 460 | 470 | 884 | 892 | 912 | 930 | 945 | 954 | 958 | 971 | 977 |
| 17 | ヌルデ | 2 2014枯れ | 430 | | | | | | | | | | | | | | |
| 17 | ヤマナラシ | 2 新対象木 | | 490 | 515 | 533 | 520 | 540 | 483 | 509 | 542 | 575 | 597 | 627 | 646 | 670 | 689 |
| 18 | カワヤナギ | 2 | 540 | 560 | 590 | 610 | 610 | 605 | 730 | 740 | 760 | 777 | 789 | 803 | 821 | 842 | 846 |
| 19 | ニセアカシヤ | 2 | 557 | 551 | 590 | 580 | 605 | 615 | 667 | 670 | 681 | 691 | 703 | 714 | 725 | 742 | 746 |
| 20 | シラカバ | 2 | 500 | 542 | 525 | 535 | 550 | 560 | 623 | 632 | 635 | 652 | 654 | 660 | 661 | 665 | 666 |
| 21 | コバノソキ | 3 枝上測 | 325 | 315 | 322 | 325 | 327 | 335 | 350 | 355 | 362 | 366 | 374 | 374 | 379 | 383 | 383 |
| 22 | シラカバ | 3 | 150 | 140 | 147 | 155 | 155 | 145 | 178 | 183 | 182 | 189 | 189 | 198 | 198 | 198 | 200 |
| 23 | ヤマコリヤナギ | 3 | 360 | 330 | 355 | 375 | 390 | 395 | 468 | 486 | 503 | 528 | 547 | 567 | 576 | 594 | 604 |
| 24 | カラマツ | 3 | 400 | 417 | 435 | 455 | 475 | 485 | 588 | 605 | 630 | 655 | 675 | 697 | 714 | 726 | 741 |
| 25 | カラマツ | 3 枝下測 | 225 | 228 | 230 | 242 | 250 | 240 | 290 | 306 | 311 | 326 | 339 | 355 | 362 | 375 | 382 |
| 26 | クロマツ(アカマ) | 3 枝下測 | 230 | 250 | 255 | 292 | 277 | 285 | 337 | 356 | 364 | 383 | 398 | 411 | 421 | 439 | 451 |
| 27 | クロマツ(アカマ) | 3 | 315 | 320 | 340 | 360 | 385 | 390 | 499 | 524 | 546 | 574 | 593 | 615 | 634 | 657 | 679 |
| 28 | クロマツ(アカマ) | 3 | 170 | 160 | 190 | 185 | 210 | 215 | 315 | 330 | 363 | 377 | 390 | 401 | 408 | 418 | 433 |
| 29 | ヤマナラシ | 3 | 235 | 226 | 235 | 235 | 237 | 235 | 249 | 250 | 250 | 251 | 253 | 254 | 254 | 256 | 256 |
| 30 | シラカバ | 3 | 466.4 | 472.8 | 489.7 | 501.2 | 512.8 | 516.8 | 582.4 | 593.5 | 606.6 | 620.7 | 633.4 | 645.0 | 655.9 | 667.3 | 674.8 |
| 年間平均成長 | | | 23.3 | 28.3 | 28.3 | 28.3 | 23.0 | 15.6 | 23.2 | 23.8 | 24.2 | 27.2 | 26.8 | 24.3 | 22.5 | 22.3 | 18.9 |
| | | | →枯死した木を除き、26本の平均で計算している。 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 2010~2019 | | | | | | | | | | | | | | |

ハンノキカミキリ食害

倒木

ハンノキカミキリ食害

風による倒木

枯死

枯死

190910長平湿地調査結果

実施日:2019年9月10日

調査者:竹浪純

観察された生物

・サワギキョウ

・モウセンゴケ

・オオルリボシヤンマのヤゴ *Aeshna crenata* Hagen,1856

25mm 1 11令

13mm 1 7令

8.5mm 1 6令

7.5mm 1 5令

6.5mm 1 4令

以上、同定者 奈良岡弘治氏

・マメゲンゴロウ *Agabus japonicus* Sharp,1873 1♂ 2♀

・ミヤマミズスマシ *Gyrinus sachalinensis* Kamiya,1936

以上、同定者 森 正人氏

(環境科学大阪株、「日本のゲンゴロウ」著者)

(By 竹浪 純)

岩木山アオモリトドマツの弘高生時代の記憶

2020年2月13日 阿部 東

高校生の頃、生物部植物班の1年先輩に、岩木山の高山植物を見に行かないかと誘われた。入部して間もない頃だったので、右も左もわからないまま夏休みの土曜日の午後には嶽温泉より1～2km手前の草原にテントを張った。翌日曜日には、朝まだ暗いうちに起き朝食をすませ、6時には自転車に乗って嶽温泉を通り、確か赤沢と言うところから沢こぎをした。1時間半くらいの登はんは水量も多く、兩岸がせまったところもあって長靴では渡れず、何度か藪こぎをしたが、石ころが多くなると水量が減って歩きやすくなった。

やがて沢は兩岸からのダケカンバとチシマザサで覆われ、それをくぐるのが大変になった。今度は沢の左岸に登るといふ。びっしり生えたチシマザサ、所々にダケカンバの大木があって地面に這っていた。ササヤブをやっと通って急に下草のない林に入った。この林、オオシラビソと言うのだそうで、これが一つの目的だそうである。私は疲れと、ごくありふれたオオシラビソと言う林に特別な気持ちもなく、ヒメキマダラヒカゲという蝶を数匹とってぼんやりしていた。

林を出て又ササをこいで嶽からの登山道に出たのは12時過ぎだったという。私達一行は登山道を登り、岩場を越えて(今思えば鳥海の火口を過ぎ)やがて右手に大きな岩のところへ来ると、一度小さな谷へ下る。大きな岩の地面と接するあたりにすき間があって、冷たい風が来る(風穴と言っていた)所へ行く。手前で先輩は言う。この黄色い花は今日の最終目的で、これを確認したので今日は帰るといふ。ウコンウツギと言った。見栄えのしないカン木で、黄色の花が咲いていた。目的を二つとも果たしたのであとは小走りに下山した。

午前中にオオシラビソを確認して合流したあたりから左側に下り、ブナの林を通してササヤブの中の道につくと先輩はやっとハンゴウを出して昼メシを食わせてくれ、水を飲んだ。道はブナ林の中を通り、さらに左側へ急な道を降り、硫黄のにおいがする谷間を通して嶽温泉についた。嶽温泉から1時間以上歩いて自転車を見つけ、家に着いたのは暗くなる頃だったので、7:00は過ぎていたのだろう。疲れていたのかもしれないが、ただ下り道が急なことと石ころだらけの自転車が怖かった。

翌日4人が集まり、オオシラビソ、ウコンウツギ、コケモモなどを古新聞紙にはさみ搾葉にした。コケモモの赤い実がつぶれたことが今だに記憶に残っている。しかし、オオシラビソとウコンウツギがこの山行の目的であることの理由が分かったのは50年も後のことになる。

2015 アオモリトドマツの枯死を確認。

岩木山のキタゴヨウマツ

2020年2月13日 阿部 東

岩木山にゴヨウマツがあることを教えてくれたのは本会の幹事の齋藤真人さんである。

齋藤さんはアオモリドマツの調査でこの木を見つけたという。私はそれまで岩木山ではゴヨウマツを見たことがなかった。後流沢の源頭や滝ノ沢の崖の上など、ゴヨウマツの生えていそうな岩場も調べたし、鳴沢の両岸、扇ノ金目あたりのピーク(ヒバの甫這状のものがある)、オッコ森、頂上近く(3月～5月の硬雪の頃調査)でも見たことがなかった。頂上の近くのゴヨウマツはハイマツ(ハイマツとゴヨウマツの違いは知らない)で、弥生からの登山道には丈の高いものも少ないないが、キタゴヨウマツのようなきゃしゃな五枚葉は見たことがなかったのので、齋藤さんの「見に行かないか」の誘いに乗った。

どこをどう通ったか記憶にないが、長平から入り、長前沢のあたりを登ったと思う。チシマザサの中を長時間登って、やがて平坦地に着いた。巨大なキタゴヨウマツがあった。岩場ではない。ササもまばらで、他の植物に何が合ったかも忘れていたが、良く見ると、かつては岩場だったところに崩れた土砂がつもり埋まったらしい形跡があった。齋藤さんからは笹森山山頂のゴヨウマツの情報も聞いたので、その年、雪を踏んで確認に行った。これは2本あった記憶があるが長平のものよりは小さかった。

その年の夏、百沢の地元の人に話を聞いた。

“百沢ではゴヨウマツを庭に植えている人が少なくない。それは全部岩木山から掘ったものだ”という。岩木山にはキタゴヨウマツが沢山あるのだと思った。

私はほぼ毎年3月には岩木山の各地を回り、ブナの枝についているフジドリシジミという蝶の卵を探した。同時にブナの立枯についているルリクワガタという小さなクワガタの産卵マークを探した。フジドリシジミは岩木山のほぼ全域のブナ林で確認したが、ルリクワガタの産卵マークは双子沼の近くのヤナギの枯木以外確認していないし、アオモリドマツ、キタゴヨウも確認できないでいる。

齋藤さんが体調を崩して、私はもう高齢で山を歩けない。ゴヨウマツの情報も場所さえはっきりしないが、今となっては貴重な記録と思うので残しておきたい。(写真は撮ったが、どこへ行ったかわからない。)

2020年2月27日 齋藤真人

キタゴヨウマツは岩木山の2か所で発見した。一つは笹森山の頂上。白沢の対岸、鯉ヶ沢寄りにポコッと出ている山田。7、8年前の早春、硬雪を踏んで行き、頂上付近に生えていた。もう一つは扇ノ金目山の長平側に面した8合目当たりの斜面。これも8年くらい前の3～4月頃で、硬雪を踏み、双眼鏡で針葉樹を探し見当をつけて歩き発見した。この時は阿部先生も一緒に歩き写真も撮っていたはずだ。自分が撮った写真は大きく拡大したものがあるので、機会を見て持参する。



岩山北部中腹部のキタゴヨウマツ



岩山笹森山の頂上付近のキタゴヨウマツ

岩木山環境保全協議会2019年度通常総会への意見

岩木山を考える会

1. 赤倉登山道26番観音付近の登山道崩落危険回避の件

26番観音付近の崖の崩壊が一層進行しているように思われます。速やかに対策を講ずることが必要だと思います。

<要望・提案>

- ① 迂回して歩けるような径があるようなので、危険個所の入口と出口に通行禁止ロープと立て札をつけて下さい。同時に迂回路の整備をお願いします。
- ② う回路を歩くようにお勧めする旨の喚起看板の設置をお願いします。

2. 焼止、鳳鳴小屋整備の件

鳳鳴避難小屋については、この数年来、関係者の整備努力にもかかわらず、入口の鴨居のコンクリートの劣化、ブロックのひび割れ、屋根のトタンの剥がれ等老朽化が進行しています。長期的な視野であるべき姿を協議していく必要があると考えます。

焼止避難小屋については、厳冬期に利用する2階入口のコンクリート庇が折れたままになっています。また、中に取り付けられている鉄の梯子も壁から取れてしまいました。こちらの修復もお願いします。

<要望・提案>

- ① 鳳鳴避難小屋の今後について、関係者、専門家、市民を含め、長期的にあるべき姿を意見交換する場を設けてはどうでしょうか。
- ② 焼止避難小屋は、1)コンクリートの庇の修繕をお願いします。できればもう少し幅があれば使いやすと思います。2)多雪の時に入口を確保できるよう、入口付近の壁にスコップを取り付けていただけないでしょうか。3)小雪の時に庇に上がれるように、横に鉄の梯子を取り付けていただけないでしょうか。4)中の鉄の梯子を付け直してください。現在の木の梯子は段差が広く、女性は使いこなせないと思います。5)焼止避難小屋の掲示看板がはがれてしまいましたが、見苦しいので修理をする予定はありませんか(画像1)。
- ③ 焼止避難小屋に灯油のストーブを置いていただけないでしょうか。もしくは持ち込みを了解してもらえないでしょうか。灯油は使用者持参ということで使うことが出来れば、冬季の宿泊にはとても役立ちます。

3. 入山ポスト設置の件

入山ポストについては、この間、嶽、百沢、弥生の3カ所に設置されており、去年の総会で、H29年1年間で590通の投函があった旨の報告がありました。利用が図られているようなので、今後残りの登山道への整備も含め検討をお願いします。また英文の様式を作成することも了解を得たはずですが、設置に至っていないようです。

<要望・提案>

- ① 岩木山登山道残りの二つ、長平登山道と赤倉登山道への設置実現をお願いします。
- ② 外国人にも対応できるように、表示や計画書の様式が英文のものを作成願います。
- ③ 投函に伴うデータは毎年公表してください。

4. 岩木山頂トイレの件

岩木山頂のトイレの入口が傷んできています。修理が必要ではないでしょうか。

また、岩木山頂のトイレがハエの発生源になっている可能性が強いため、お山参詣時の携帯トイレの使用を試行してみようということになってはいますが、実施されていないようです。是非、実施をお願いします。また、県外登山客からは、トイレに募金箱がないことに驚いていました。募金箱を置くことも検討してはどうでしょうか。

<要望・提案>

- ① トイレの入口ドアの修理が必要です(画像2)。
- ② お山参詣時に携帯トイレ使用試行の実施をお願いします。
- ③ トイレにしっかりとした募金箱を設置してはどうでしょうか。いくらかでも経費を賄えることと、必要以上の使用を抑えることにもつながると思います。

5. 登山者への啓発活動の件

登山者はもちろん、岩木スカイラインを利用する観光客を視野に入れた、啓発活動が必要ではないでしょうか。また外国人登山者が増えていることから、対応が必要です。

- ① スカイライン終点、リフト乗り場に、服装やトイレの注意看板を立てて下さい。
- ② 外国人旅行客向けに看板には英語の記載をお願いします。
- ③ パンフレットに、各登山道のトイレの場所の明記、携帯トイレ使用の勧めを付け加えて下さい。

6. 登山道危険・要検討個所の件

当会で行った登山道調査に、スカイライン(リフト含む)への無料通行許可の件で市、岩木スカイライン(株)のご援助をいただきありがとうございました。6月から7月にかけて、百沢登山道と弥生登山道の調査を実施しました。以下の見解を持ちましたので、よろしくご検討ください。

- ① 百沢登山道①:焼止から間近の滝の右岸の崖を渡る部分が非常に危険なので、岩肌に鎖を取り付ける必要があるのではないのでしょうか(画像3)。
- ② 弥生登山道①:8合目から9合目に至る部分で、耳成岩の直下の部分20mほどに渡って、登山道にひび割れが走っています。以前からあったものなのか、昨年の刈り払い後新たに発生したものか不明ですが、専門家に危険度の評価をしてもらう必要があると考えます(画像4)。
- ③ 弥生登山道②:8合目から9合目のトラバースの最後の部分に見られる山体の崩れが拡大しているようです。崩れは拡大する一方だと思われませんが、ここも評価が必要だと考えます(画像5)。
- ④ 弥生登山道③:上記②の部分に取り付けているザイルの一部の傷みが激しいので交換が必要です(画像6)。
- ⑤ 弥生登山道④:4合目標識、その下にある新たに設置した新標識が倒れているので設置し直しが必要です(画像7)。
- ⑥ 各登山道の整備は、昨年、民間団体に委託のような形になってしまいましたが、いざ事故が発生した場合の責任の所在など大きな問題になりかねません。それ以前のやり方(関係者の意見・指摘に基づき、市が責任をもって整備をする。)に戻すべきだと考えます。ご検討ください。

7. 追子森登山道の紹介とパンフ掲載の件

追子森登山道が整備され、誰もが利用しやすいコースとなっています。しかし登山口の標識がないため、市民が気軽に利用できません。弘前市のエリアではありませんが、利用するのは圧倒的に弘前市民が多いと思われます。是非鯉ヶ沢町との協議の上、利用しやすい配慮をお願いします。

- ① 追子森登山道入り口の標識を主だったところにつけてください。
- ② パンフへの掲載をお願いします。

以上



図1



図 2-1



図 2-2



図 2-3



図3



図 4-1



图 4-2



图 5-1



图 5-2



图6



图 7-1



图 7-2

弥生登山道8～9合目付近の亀裂調査コメント

弘前大学農学生命科学部 鄒青穎^{ソウセイエイ}

標記の箇所(図1)について、令和元年7月24日(水)に現地調査を行った結果、以下のように考えられた。

- 1) 弥生登山道8～9合目付近は、北東走向の亀裂(25m程度)が存在した。南東落ちの開口段差亀裂(10～30cm程度)が観察された。斜面南東部には急傾斜面(45°程度)が存在するため、南東の方向へ斜面変動が起こった。
- 2) 調査箇所は風化や剥離した岩屑が急傾斜面を落下し堆積して作られた崖錐斜面(30°～40°)(図3)で、透水性が高いため、融雪や豪雨の時には、斜面変動を引き起こしやすいと考えられる。
- 3) 今後の融雪や雨、下方斜面の変動によって亀裂が拡大する可能性もあると考えられるため、亀裂の監視や注意看板の設置が望まれる。

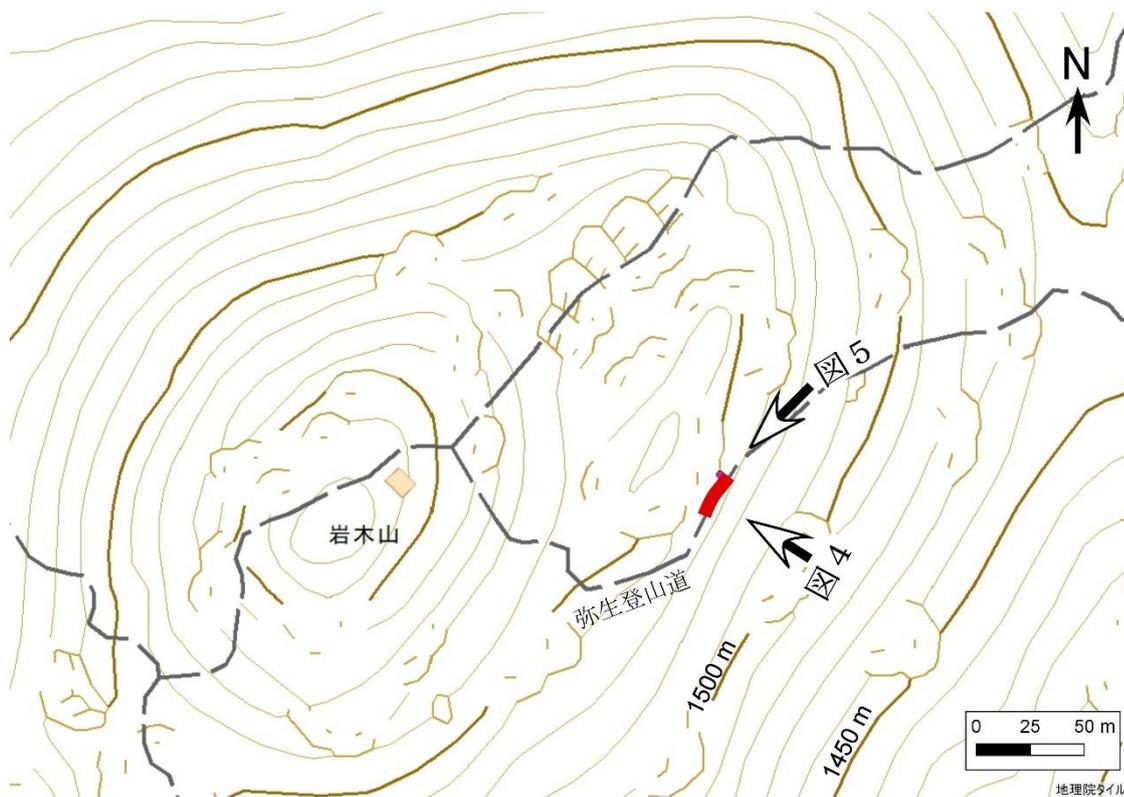


図1調査箇所と亀裂の分布(赤線)



図2 南東落ちの開口段差亀裂(10~30cm 程度)



図3 崖錐斜面



図4 亀裂の分布範囲（矢印間の範囲）。亀裂を南東から見た写真



図5 亀裂を北東から見た写真





2019年10月

自然保護の40年を振り返る(年表)

岩木山を考える会

- 1978年(S53) 「青秋県境奥地開発林道開設促進期成同盟会」結成 会の目的:西目屋村・鯨ヶ沢町・岩崎村並びに八森町を結ぶ奥地開発道路を開設し、青森県と秋田県の経済交流を円滑にし、地域の振興に寄与する。
- 1982年(S57) 7. 19「青森県自然保護の会」「日本野鳥の会弘前支部」青森県に林道着工中止の要望書を提出
- 1983年(S58) 青秋林道に反対する連絡協議会(奈良典明会長)を結成
- 1989年(H1) 岩木山麓リゾート地域マスタープラン策定
- 1990年(H2) 青秋林道の建設中止が確定
- 1991年(H3) 岩木山弥生リゾート開発基本計画
- 1992年(H4) 岩木山弥生スキー場建設計画(弘前リゾート開発株)
- 1993年(H5) 岩木スカイリゾート(スカイラインスキー場)反対のアセスメントを嶽開発に提出
- 1994年(H6) 岩木山を考える会発足(4/1)
- 1994年(H6) 弥生スキー場造成建設工事(39.3ha)が始まる。
- 1995年(H7) 岩木山を考える会「スキー場・リゾート」学習会
- 1997年(H9) 弥生スキー場建設計画はとん挫し、弘前リゾート開発株は解散
- 1997年(H9) 岩木山を考える会が鯨ヶ沢スキー場拡張計画を察知、事業者に質問状提出
- 1999年(H11) 冬季アジア競技大会のための鯨ヶ沢スキー場拡張計画中止の要望書を提出(岩木山を考える会・日本野鳥の会本部・県支部・弘前支部)
その後、拡張工事は強行され、ブナ3000本が伐採された。
- 2000年～04年
(H11～14) 岩木スカイリゾート(スカイラインスキー場)等リゾート関連事業解散
- 2001年(H13) 弘前市が弥生スキー場跡地に大型児童館建設構想を立ち上げ、跡地を5億8900万で買収
- 2001年(H13) 「弥生スキー場跡地問題を考える市民ネットワーク」結成
- 2003年(H15) 冬季アジア競技大会で「岩木山を考える会」が抗議行動
- 2006年(H18) 弥生跡地の大型児童館建設構想中止決定
- 2006年(H18) 第27回東北自然保護の集い・岩木山大会
岩木山弥生スキー場予定地問題、青森市横内水源地の植樹問題)
- 2012年(H24) 第33回東北自然保護の集い・青森
脱原発の世論の高まりと、県内における風力発電開発計画が進む
- 2018年(H30) 第39回東北自然保護の集い・白神
白神山地の保護運動を改めて振り返る、弥生スキー場跡地の自然回復の取り組み

岩木山を考える会 会則

第1条 名称

本会は、「岩木山を考える会」と称する。

第2条 目的

本会は、岩木山の自然を大切にし、豊かな環境で潤いのある生活を願い、真にあるべき姿を考え、守ることを目的とする。

第3条 会員

本会の趣旨に同意し、会費を納入した者を会員とする。

第4条 組織

- 1) 会長1名、副会長1名、幹事若干名、会計監査2名、顧問若干名
- 2) 事務局は、事務局長1名、庶務若干名、会計1名からなる。
- 3) 役員は総会において選任し任期を2年とするが、再任は妨げない。

第5条 会計

本会の経費は、会費及びその他をもってあてる。
会計年度は4月1日より翌年3月31日迄とする。

第6条 事務局

本会の事務局は、会計への連絡、便宜を図る。

第7条 附則

本会則は、平成6年4月1日より施行する。
本会則(改訂)は、平成10年4月11日より施行する。
本会則(改訂)は、平成12年4月8日より施行する。
本会則(改訂)は、平成14年4月14日より施行する。
本会則(改訂)は、平成30年4月8日より施行する。